

マハレ活動報告書

「マハレ山塊国立公園の近隣村落における自然教育への援助」

2009 年活動内容

マハレ山塊国立公園にもっとも近いカトゥンビ村にあるカトゥンビ小学校は日本大使館の援助によって建てられたが、その後タンザニア政府の援助はなく、約 700 人の生徒がいるにもかかわらず、マダワティ(椅子付き机)は 30 個程度しかない。このため、生徒たちは教室の床に座って授業を受けている。

このため、去年はマダワティを 100 個にすることを目的として、マダワティ 66 個の製作に着手した。今回 2009 年 6 月 11 日に再度カトゥンビ村を訪問し、計画どおり、マダワティが完成したとの報告を受けた。また、校長のジュマ・マクウェパ氏からは、製作にかかった資金などの明細等について書面での報告を受けた。



完成したマダワティ



小型液晶プロジェクタでの上映会

また、カトゥンビの子どもたちは、チンパンジーが生息している国立公園のすぐ近くに住んでいるにも関わらず、実際にチンパンジーを見る機会がほとんどない。このため、本年は小型の液晶プロジェクタを持参し、パソコンと繋いでチンパンジーの映像を子どもたちに見せるという活動をおこなった。映像は、長年マハレでチンパンジーの映像を撮影し、数多くの番組を制作しているアニカプロダクションの中村美穂氏より、かつて放送した番組の映像を無償で提供していただいた。番組のナレーションが日本語であるため、マハレで調査助手をしているラシディ・キトベニ氏に、スワヒリ語での解説をしていただいた。

カトゥンビ村には大きなホールがないため、小さな教室に、百数十人の生徒が字義通り足の踏み場もないほどに入り、映像鑑賞会をおこなった。暗幕の代わりに布を張り、スクリーンの代わりに白い紙を張り合わせたものを使うなど、手作りでの上映会となった。部屋が完全に暗くならず、若干映像が見難かったものの、ほとんど娯楽のない村であることもあって、珍しい映像に子どもたちは終始興味深そうに見入っていた。最後にキトベニ氏と中村から、40 年以上もの長きにわたって、カトゥンビ村の人々がチンパンジー

の調査に協力してきたこと、世界的にチンパンジーの生息地が失われつつあること、チンパンジーを保護することの大切さなどのメッセージを子どもたちに伝えた。

今後も、こうした自然教育活動を地道に続けていき、地元の学校等で必要とされている最低限のインフラ整備に対して少しずつでも補助をしていきたいと考えている。



子どもたちの真剣な眼差し

マハレ収支報告書

円会計

#	日付	項目	入金	出金	書類	備考
1	2009.1.1	前年繰越金	970,255			
2	2009.2.21	利息	551			
3	2009.5.7	TAXAN LED光源エコプロジェクター		81,438	領収書	
4		次年繰越金		889,368		
		合計	970,806	970,806		

USドル会計(単位 \$)

#	日付	項目	入金	出金	書類	備考
1	2009.1.1	前年繰越金	4,550			
2		次年繰越金		4,550		
		合計	4,550	4,550		

タンザニア・シリング会計(単位 Tsh)

#	日付	項目	入金	出金	書類	備考
1	2009.1.1	前年繰越金	1,866,500			
2	2009.6.11	旅費支援		300,000	覚書	
3	2009.6.11	ジェネレーター用ガソリン代		6,000	領収書	
4	2009.6.11	ジェネレーターレンタル代		15,000	領収書	
5	2009.6.11	ボート燃料費		40,000	領収書	
6	2009.6.11	上映会手伝い人件費		22,500	領収書	
7		次年繰越金		1,483,000		
		合計	1,866,500	1,866,500		